

# 図書館から見た「学士力」とは

## 2.1 高校とは違う学修方法について

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。これまで厳しい受験勉強に追われる生活を送られて来たことと思います。これから楽しい大学生活が始まります。目指す資格の取得や、好きな分野の勉強、サークルでの自主的な活動や友人との語り、他県や県内の他地域から入学した同級生、海外からの留学生など多様なバックグラウンドを持った同世代との交流、長い余暇を利用した旅行や自主的な活動など、待っている未知の学生生活に胸ふくらませていることと思います。富山大学は多様なカリキュラム、学生（生活）支援を提供し、みなさんの学生生活をしっかりとサポートします。図書館も、多様な学修支援の中核として、みなさんの勉学をサポートしていきます。

さて、大学に入学されたのはもちろん自分で選択した専攻で勉強し、学士として必要な学問的知見や高度なスキルを身に着けるためです。それ以外の多様な活動、楽しみはあるでしょうが、このことを抜きにして大学生活はありえません。

それでは、大学での学修はこれまでの学修（高校での学修）とどう異なるのでしょうか。高校では教科書があり、この教科書の内容を、予習、復習、そして授業そのものでキチンと習得することが学修の要でした。先生から教えられたことを正確に理解し、理解を踏まえて与えられた課題（問題）を正確にこなす（解く）ことが学修の主な内容だったのではないかと思います。それぞれの方の趣向により、一つの科目や一つの分野を深く勉強したり、趣味で創作や音楽などいろんな活動をしたりして、授業による習得の範囲を超えて何かに打ち込まれた方もいると思いますが、高校における学修はおおむねそうしたものだものと思います。

もちろん、大学でも特に基礎的なレベルでは教科書があり、授業でも教科書を使う場合がほとんどかも知れません。教科書の記述に沿って忠実に進められる授業もあるでしょう。あるいは、教科書の内容にさらに先生方の知見や経験を付加して、教科書の内容のみにとどまらない授業もあるでしょう。ひょっとすると教科書はあるものの、あくまでも参考程度で、授業自体は独自の内容とスタイルで進められるケースもあるかもしれません。教科書以外の多くの参考書を参照する必要のある授業（とくにゼミのような専門課程の授業）もあるでしょう。

しかし、大学での学修でもっとも大事なことは、講義を聴くことは学修全体のごく一部で、授業の外で与えられた課題をこなす、あるいは自ら学修する課題を見つけ出し、自ら課題をこなす姿勢です。90分の授業で「教える」ことができること、講義可能な内容はどんな学問分野でもごく一部です。実は教える立場の教員は、授業で教授可能なことの外側に広がる各学問分野の基礎的な学修を学生が自らの意思で、自らのスキルを持って強力

に進めることを期待しているのです。授業や講義は学ぶべきことの核心かもしれませんが、核心にある知識や認識、スキルを確実にし、自分自身の学問的認識の不可欠の一部とするためには、広範な自学自習が必須なのです。大学における学修は教えること、教わることの外側で、教わったことの学問的な意味を確認し、自分の生きた認識の一部とするための自主的な活動なのです。

たとえば、アメリカ近代文学史の授業を取ったとします。教科書や代表的な小説の抜粋などで、文学思潮や個別の作家の個性について概略を学んでいるとしましょう。しかし、これはあくまでも文学（史）を学ぶための導きですし、そのように理解すべきものです。歴史や文学思潮の概略について聞いた後は、自分で個々の作家の作品を手にとって味読し、自分自身の文学史を作り上げることが必要なのです。そのような広範で持続的な各専攻分野での自学自習を背景にすることにより授業が生きてくるといっても過言ではありません。

このように考えると、高校での学修と異なる点は明らかです。大学で期待されているのは、自分で学修方法を習得して、自ら課題を見つけて、自ら課題を解決するための学修、調査をする姿勢なのです。そして、自立的に課題を発見し、課題を解決するためには学術的な手続きやアカデミックなスキルが必要になるのです。

図書館を含む大学で行われる支援はこうした自立的な姿勢とスキルを身に着けるために行われるものです。例えば、授業で統計の基礎を習った後は自習で使いこなせるようにし、必要があれば統計の手法を使って何等かの対象についてデータを収集し、分析します。この場合、統計は授業で教授しますが、それを十分に使いこなせるようになること、なんらかの解決すべき課題を見つけて、統計的手法でそれを解決することは自分自身の学修課題となります。もちろん、課題が与えられることもあります。その場合も、回答は自ら探し出すことが必要です。

みなさんがこれから教養教育を経て、専門課程に進むにつれて、求められる課題解決のためのアカデミックな自立性は次第に高度なものになっていきます。漫然と授業を受けるのではなく、授業を通して新たな知見を得るとともに、ぜひ、自分自身の学修（方法）について強いモチーフや意識を発見・獲得（もう十分あるという方がほとんどかもしれませんが）し、大学が提供する支援や多様なリソースを使いこなし、学士として十分な自立的な学修経験、課題解決経験を積んでいただきたいと思います。学問をすることの真の喜びは自主的な経験の中で、先人の学問的認識や思考に触れ、それに刺激されて、自分自身の勉学の動機や目的を発見し、その目的や動機に促されて自ら学ぶことです。

みなさんの自立的な学修を可能とするために、膨大な学問的資源（図書、雑誌、データベース、電子ジャーナル、電子ブック等）を収集蓄積しているのが図書館です。また、富山大学だけでなく、全国の大学図書館とも連携して、本学だけでは提供できない学問的資料も利用できる体制を整備しています。こうした資料や資料探索用のツールを使うための

講習も用意していますし、必要が発生したその都度みなさんの質問にも答えられるよう、人の支援体制も整備しています。自立的な学修はこうした多様な情報源を十分に使いこなし、さらに得た情報を自ら評価・判断し、アカデミックな作法に従って処理、発信（レポート、口頭発表、卒業論文等）することにより、高校とは本質的に異なる学士にふさわしい活動となります。

このテキストは初年次の学生のみなさんが図書館を使って、自学自習や授業の課題をこなすために必須の必要最低限の情報についてご説明しています。ここで説明している程度のことは初年次のうちにしっかりと身に着けて2年次以降の学修に備えることが必要です。

ぜひ、このテキストを使い、また実際に図書館を使いこなすことにより、富山大学の新生として必要なアカデミックスキルを身に着けましょう。以下の章では具体的な図書館利用方法についてわかりやすく説明していきます。

